



北・その自然と人

札幌市博物館活動センター情報誌 ミューズ・レター

Muse Letter

札幌市博物館活動センターは自然系総合博物館の計画推進のため、市民とともに教育普及活動、展示・交流、調査研究、資料収集保存を行う活動拠点です。

2013. 2 No.52 発行・札幌市博物館活動センター

〒060-0001 札幌市中央区北1条西9丁目 リンケージプラザ内5階

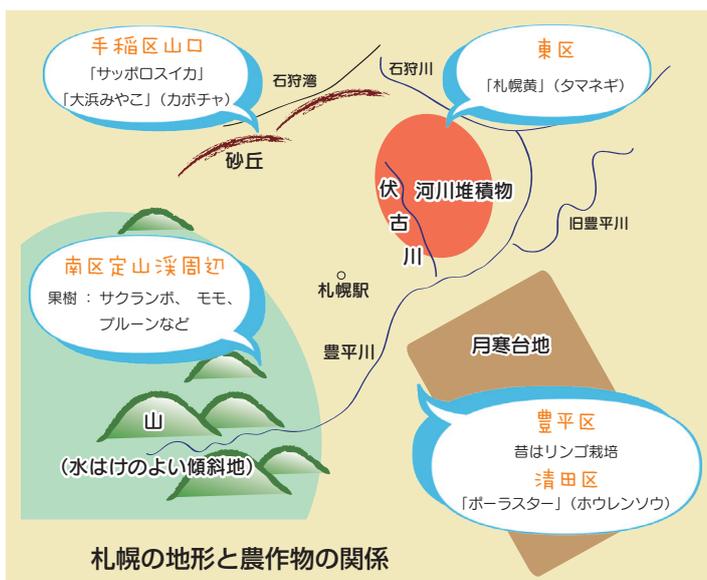
TEL 011-200-5002 FAX 011-200-5003 <http://www.city.sapporo.jp/museum/>

タマネギは川の恵み

タマネギ、ニンジン、ジャガイモ・・・冬の定番メニューのシチューには冬の間も長く保存ができる野菜が入っています。中でもタマネギは北見市が有名ですが、札幌市内でも作られています。特にタマネギ農家が多いのが東区です。道道112号線（伏古拓北通）を北上すると、丘珠空港や「サッポロさとらんど」付近から突然目の前が開け、タマネギ畑が続きます。秋には農家の家先に「タマネギ一袋〇円」などという看板が出るので、これを楽しみにしている人もいるかもしれません。

札幌市内でタマネギの試験栽培が始まったのは明治時代です。現在の東区で栽培に成功して以来、ずっとタマネギが栽培されてきました。な

ぜ東区がタマネギ栽培によかったのでしょうか。それは、栄養たっぷりの土があったからです。その土はどこから来たかという、川が運んできました。現在の伏古川は流れもゆっくりで水も少なくおだやかに見えますが、過去に豊平川だった川筋なのです。昔の伏古川はクネクネと曲がりながら流れ、大雨などで洪水を起こすたびに上流



札幌の地形と農作物の関係

から大量の土砂を運びました。土の中には様々な栄養分も含まれています。繰り返される洪水により、土砂は川の両側にたまっていき、両岸には周りより少し高くなった「自然堤防」と呼ばれる地形ができました。その外側が畑に適した乾いた土地になり、タマネギ畑として利用されたのです。そして、札幌はタマネギの一大産地となり、第2次世界大戦前には海外にも輸出されていました。当時さかんに作られたのが札幌ブランドともいえる「札幌黄」という品種です。しかし、現在は病気に強い改良品種におされて生産量が減り、「食の世界遺産“味の箱舟”」に登録されています。

農業は土づくりが大事といえます。人々は川や洪水という自然現象からもらった土の恵みを、毎年収穫できるように・・・と代々大切に利用してきたといえます。洪水に運ばれてきた土は、ノアの箱舟のように今でもタマネギを守り育て続けています。(山崎)

タマネギ *Allium cape* L. ネギ科ネギ属

原産地：中央アジア（諸説あり） ※旧分類体系ではユリ科。

- 花
通称「ネギ坊主」。小さな花が球状に集まって咲く。花が咲く前に収穫する。
- 葉（上部）
中は空っぽで、「先が閉じてとがったストロー」のような形。
- 葉（下部）
球になる部分は「鱗茎（りんけい）」と言われるが、正確には茎ではなく葉の付け根が肉厚になる。
- 球が半分くらい地上に出て生えている。
- 茎：硬い芯になる（切ると見える）。
- 根：10cm未満で短く、白っぽい。

図作製：札幌市博物館活動センター

参考：さっぽろ文庫40「札幌収穫物語」（札幌市教育委員会編、1982年）、札幌市農政部ホームページ「大地が育てた札幌農業」、東区役所ホームページ「東区特産のたまねぎ札幌黄」、札幌黄ふあんくらぶ <http://www.sapporoki.net/>



「博物館」を意味する英語Museumの語源であり、喜びを表すmuse（ギリシャ語）と通信や手紙を意味するLetter（英語）からMuseLetterと名付けました。

連載!

札幌っ子 大杉解説員の 心のスケッチブック

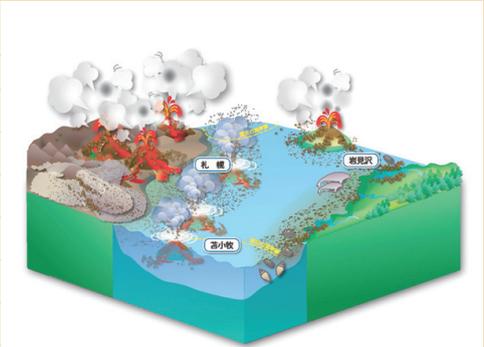
Page4

藻岩山～札幌の代表的な山～

藻岩山は、札幌市民ならばスキー学習で訪れたり、遠足で登ったりする、いわば札幌のシンボリックな存在です。

実は、昨年4月に展示解説員として初めて受けた質問が藻岩山でした。藻岩山の成り立ちを知ることは、“札幌っ子”への第一歩と言っても過言ではないでしょう。

今回は藻岩山が何万年前にできたのか、どんな岩石から出来ているのか、ちょっとだけ科学的な事柄にも触れて藻岩山を見てみたいと思います。



約410万年前の札幌を想像すると…

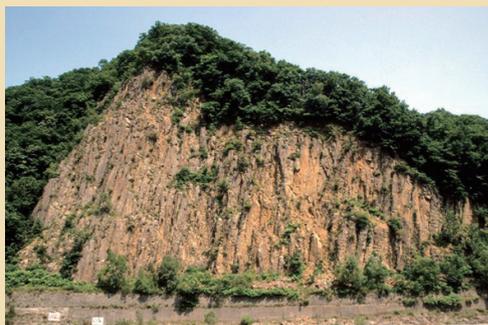
○藻岩山は何万年前にできたのか?

藻岩山は、今から約410万年前に海底火山として噴火活動を始めました。そして、約280万年前に軍艦岬ができます。その後、約260～230万年前の火山活動を最後に今の形の藻岩山ができたと言われています。

○藻岩山はどんな岩石からできているの?

火山活動によってマグマから作られる岩石を火成岩と言います。火成岩は含まれる成分や冷え固まり方によって様々に分類されます。その中でも藻岩山は安山岩という火成岩からできています。同じ安山岩質のマグマでも地中の浅い所で急に冷やされると硬石山のように「柱状節理」と呼ばれるひびが入りますし、海中に噴きだすと藻南公園に見られる「ハイアロクラスタイト」と呼ばれる岩石になります。

このように岩石の中の結晶や構造から推測すると、藻岩山は激しい活動を繰り返しながら今の形になったことがわかってきます。博物館活動センターには安山岩の他にもさまざまな岩石の展示があります。岩石の作り方を比較しながら、展示を見て頂けるとまた新たな発見があるかもしれません。



硬石山の柱状節理。タテにヒビが入っている。



藻南公園のハイアロクラスタイト (奥のガケ)